

小諸市健康づくり推進協議会 議事録

日時:令和 7 年 7 月 30 日(水)午後 7 時～8 時 40 分

場所:小諸市役所第1・2会議室

1 開会

2 委嘱書交付

3 会長挨拶

4 委員、事務局の紹介

5 小諸市健康づくり推進協議会について

6 協議事項

(1)令和 6 年度保健事業実績報告について

①保健事業の概要

質疑1

- 医師確保対策、定住確保が難しいとのことだが、どのような PR を実施しているのか。

⇒医師就業資金貸与については、広報こもろや市の HP で PR を行っているが、PR の方法を検討したい。

- ☆ 医師の適正配置にもかかわってくるため、どのような医師に来てほしいのか、こんな PR をしたいというものはあらかじめ相談してもらえるとよい。
(2 次救急医療にかかわる医師が対象となっている。)

質疑2

- (がん検診の)肺がん検診精密検査受診率が目標値 90%に対して 74.1%という目標や国の平均よりも低い数値に対してどのように捉えているか。また、増加させるためにどのような対応を考えているか。

⇒電話や通知で受診勧奨を行っているが受診率に繋がっていない状況。

- 受診率を上昇させるエビデンスも出ているがそれに基づいて行っても上がらない場合はどのように考えているか。

⇒検討していく。

質疑 3

- 昨年胃がん検診内視鏡について医師会の先生方と検討をする機会を設けたらどうかと意見をしたが、その後の進捗を聞かせてほしい。
⇒がん検診担当でスケジュールを段階的に組み、令和 7・8 年として進めていく予定だが、検討の際先生方にも改めて依頼していく。今年度は胃内視鏡検診導入に向け運営委員会の準備を行っていく。

質疑 4

- 乳がん検診の数値問題。こもろ医療センターと健康づくり事業団2つで実施しているにも関わらず、要精密検査率が2つの間で違いが大きいのではないか。こもろ医療センターの要精密検査率が高いが、高いから良いわけではない。精密検査となる基準は国で決まっているため、そのような基準を守りながら実施する医療機関に委託すべきではないか。
⇒精度管理については検討していく。病院への申し入れは何度か行っている。結果的に精密検査率が高いというのは事実。しかし、健康づくり事業団で実施できる人数は限りがあるため、病院と検討はしながら、市民にとって受診しやすいこもろ医療センターに引き続き委託していければと考えている。

質疑5

- 子宮頸がん検診の受診率についてどうとらえているか。ワクチンが普及したことにより、世間の注目度も上がったと思うが、それに伴い受診率に変化があったか否か。
検診で異常が出る人は60代以下が多いことから、リスクに応じて年代で強弱をつけながら勧奨していくのが良いのでは。
⇒HPV のワクチンの予診票を送る際にも、子宮頸がん検診の受診勧奨をしている。
子宮頸がん検診については、昨年に比較して受診者増加している。引き続きワクチンを受け、20 歳からは検診を受けるということを PR していきたい。
- 子宮頸がんの年代ごとの罹患率はエビデンスも出ている。また、横浜市では、HPV 検診をはじめ、陰性であった場合は5年間ごとの健診でよいものになっている。5 年に1回でよいため費用対効果も高い。小諸市でも検討してはどうか。
⇒システムによる受診間隔の管理等がしっかりできる体制が整ったところで先生方にも相談して進めていきたい。

質疑6

- 健康相談・特定保健指導を実施して体重が下がったなどの効果が得られたのか。アウトカムについて教えてほしい。
⇒データヘルス計画等で特定健診の保健指導率については 60%というような目標が定められている。
データヘルス計画は、国保の方を対象の健診、保健事業として地域の実態に応じた目標を立て経年で見ている。

質疑7

- SOS の出し方教育は学校に来ることができている生徒よりも、不登校になっている生徒にこそ、YouTube など届けるべきではないか。
⇒SOS の出し方講座の際に、生徒が相談先を知ることができるように、相談先周知ファイルを作成して配布している。不登校の生徒は講義自体を受けることはできないかもしれないが、ファイルは手元に届くようにしている。

質疑 8

- 子どもの母数が小さいため、乳幼児健診の所見についてポイントの幅が小さいものは増減したとは言えないのではないか。
⇒有意差は出していない。

質疑9:

- ハイリスク妊娠の年齢について、成人が 18 歳に繰り下がったことから、20 歳以下の妊娠から 18 歳以下に変えるべきではないか。
喫煙率についても、妊娠確認時に喫煙をしている人は 10 人に 1 人くらいの割合でいるように感じる。市で把握している人よりも喫煙者はもっと多いのではないか。妊娠届提出時は喫煙についてどのように把握しているのか。
⇒喫煙の有無と本数について妊娠届提出時と 4 ヶ月児健診時に確認している。
しかし、より正確な回答が得られるよう検討していきたい。

(2)令和 7 年度保健事業について

①带状疱疹ワクチン接種について

带状疱疹ワクチンR7年 4 月より年度内に 65 歳を迎える方を対象に実施している。今後 5 年間に至っては経過措置として 70・75・80・85・90・95・100 歳になる方も対象に実施。

②新型コロナワクチン秋接種について

昨年度新型コロナワクチンが定期接種化された。対象を 65 歳以上とし、10 月までには広報等で詳細を周知予定。

③1 か月児健診について

国の方からの助成が決定した。長野県内一律に公費補助にて小諸市もR7年4月より1 か月児健診を実施している。

④産後ケア事業の拡充について

国の方から産後ケアを充実させるようにとのことで、ショートステイ事業の自己負担額を3割から2割へ減額。母乳相談等助成券を6,000円から12,000円分へ増額した。

⑤プレコンセプションケアの拡充について

将来妊娠の可能性のある男女への健康教育。

小学校6年生、中学3年生、20歳を祝う会、妊娠届提出時ごと対象者に合わせた内容に変えてチラシを配布していた。

◇ チラシの漢字1つ1つにふりがながふってあって、こどもたちにとってもわかりやすいと感じた。こどもからすると健康とは担任や養護教諭と繋がっていることだと思っている子も多いと思うが、市からチラシがあることで学校以外でも自分たちの健康を見守ってくれていると認知するきっかけになる。

➤ 小6の内容と中3の内容があまり変わらないように感じた。

中3には性交渉や避妊のことについても触れてもいいのではないかな。

⇒チラシには避妊などについて直接的な表現はしていないが、チラシの二次元バーコードを読み込むことで思春期特有の悩みをまとめたサイトに飛ぶことができるようになっている。

(3) その他

7 閉会